○３番（山口裕子君）〔登壇〕

議長の登壇の許可を得ましたので、ただいまより山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。傍聴の皆さん本当にありがとうございます。社会学習で訪れていただいた中学生もありがとうございます。

それでは、本当にお昼にかかっていて時間がちょっと気になっておりますが、簡潔に質問していきたいと思いますので、先ほどからおっしゃってますように、簡潔な答弁をお願いいたします。

それでは、早速入らせていただきます。

１番目に福祉行政についてということで、放課後児童クラブについてお尋ねいたします。

子どもの育つ環境という形で、たびたび私が一般質問に上げさせていただいておりますが、本当に今議会でも皆さん、議員さんたちがいろんな問題を上げておられますが、子どもの育つ環境が随分変わってきたと思うんですね。学校教育の現場でもそうだと思うんですが、御船の学校に学童保育の教室が建つようですが、今、子どもたちが学童に残る数ですね、登録数といいますか、そういう数をまず教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

藤﨑こども部長

○藤﨑こども部長〔登壇〕

お答えします。

現在、武雄市において放課後児童クラブを設置している箇所が11カ所でございます。11月末現在で434名の登録となっております。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

400人を超す子どもたちが学童保育として残っているわけですが、やはり当初、十数年前にこの施設が必要だと準備され始めたころと、数からしてもわかるようにかなり変わってきているわけですが、御船でも登録数が103人というふうに聞いております。そのときに対応している指導員の先生がそれに対して３人ということですね。自分の小さかったときとか、子どもたちの様子を見てもわかるんですが、一たん学校が終わったということになりますと、やはり気を抜くというか、ほっとする場所というのが学童保育という形になると思うんですね。昔は、学童保育に帰ってきた子どもたちはおやつも用意されていて、大勢の数じゃなかったし、家庭的な環境が保たれていたわけですね。それからすると、いろいろな意見があるんですが、本当に指導員さんたちのことを考えると、今までとは違う対応、本当に子どもたちが疲れて、学校のいろんなことで不満を出したりとか、甘えてみたりとか、本当に指導員さんたちにかかる負担がかなり大きくなってきているということを聞きます。そうやって甘

えてだっことか、おんぶとか、そういうことができる子どもたちはまだ幸せなんですが、もうそれに反発して疲れて、いじめたり、いたずらをしたりとかいう子どもたちもたくさんいるわけですね。そのときに、この指導員の数で本当に体制がなるのかなという不安も聞かれているし、指導員側のほうももうちょっとざっといかんという形の声が上がっておりますので、そういう問題点からして市長はどのようなお考えにありますか、お答えください。

○議長（杉原豊喜君）

藤﨑こども部長

○藤﨑こども部長〔登壇〕

放課後児童クラブの指導員さんにつきましては、私ども現在のところ60名以上になった場合は３名というふうなことで、（245ページで訂正）それ以下につきましては２名配置をしておりますけれども、障がい児の受け入れがあった場合は１人増員して３名体制を現状はとっているところでございます。少ないというふうなことは把握しておりませんが、現場の指導員の方々と今後いろいろ話をしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

数から見ますと部長の答弁のとおりでありますけれども、去年、結構回りました。回ったときに率直に感じたのは、ここは指導員の数がちょっと多いんじゃないかなということと、もう１つ、ここはちょっと足りないんじゃないかなと。足りないと思っているところにもう一度行ったときは、そのときは少し多かったわけですね。そいけんが、行ったときの状況ですよね。あと、どういう子どもたちの、その集団によって違いますので、そこの対応がやっぱり現場では難しいのかなというのを思いましたよね。ただ数だけじゃなくて、言い方が適切かどうかはわかりませんけど、その集団の性格というか、そこもきちんとケアする必要があるんだろうなというのは思いました。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にそのときそのときですね、それと、そこの学童保育によってもいろいろ違ってくると思うんですが、今は本当に育てている親御さんたちのライフスタイルとか、あとはひとり親家庭というか、そういうところが多くなったということとか、そういう面を見て学童を利用する方たちが、それと下校のときの危険性ですね、帰り道、不安な状況にあるということで、迎えに来るまで学童を利用させてほしいとか、利用の仕方が、昔は本当にだれも家にいないかぎっ子というか、そういう子たちを救うために学童ができてきたと思うんですが、そ

ういうところから考えたら、この体制のあり方とか、本当にすべての人がこの学童で預かるような形になるのか。まして声としても１、２年生だけじゃなくて――２年生までですかね、３年生までですね、高学年も帰りが危ないのでそういう場所があったらいいとか、そういう話が出てきておりますので、体制として、今後、武雄市はどのような形で考えておられるかというのもお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

藤﨑こども部長

○藤﨑こども部長〔登壇〕

お答えします。

先ほどの質問ですけれども……

〔３番「じゃ、もう一回いきましょうか」〕

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

利用するニーズというか、そういうのが変わってきたということを今言っていたんですが、とにかく本当にかぎっ子というか、家にだれもいない人がそこにお世話になるという形で始まった学童だったと思うんですが、今はやっぱり保護者さんたちのライフスタイルとか、ひとり親家庭も多くなったということとか、帰り道が危ない、不審者がいるとか、そういう形で利用させたい、高学年でも低学年と一緒に帰らせるような利用の仕方をしたいということで学童を利用される方が多くなってきていると思うんですが、それに対してどうお考えですかという質問です。

○議長（杉原豊喜君）

藤﨑こども部長

○藤﨑こども部長〔登壇〕

失礼しました。

現在のところは３年生までの放課後児童クラブでございますけれども、中にはそういうふうな意見も上がってはきております。その件につきましては私たちも考えているところでございますけれども、児童クラブのあり方として、従来どおり保護者の仕事等で保育に欠ける家庭の児童の保育支援として考えておりますので、現時点では私のほうでは３年生までということで考えております。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

それと、こういうニーズの違いというか、昔からしたら、十数年前からしたら今の子育て

環境が変わっているということで、こういうことの学童から、今度市長にお尋ねするんですよ、常々、子育て支援の体制で児童館が必要だとか子どもセンターが必要だというのは、こういうニーズの違いから地域で子育てするお母さんたちがこういう児童センターとか児童館が欲しいという形になるわけです。学童しかないからそこでお世話になるという形になるんですが、児童館とか児童センターがあれば、もっと幅広くそこを利用できるという形になるわけですね。児童センターであれば高校生18歳までがそこにかかわるということで、縦の社会もそこで味わうことができるし、いろんな意味で不安な世の中の環境を本当に心配しているお母さんたちも安心して子育てができるという形になると思うんですね。そこで児童館とか子どもセンターが必要だなという形になるんですが、市長の考えをお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は基本的に、そういう箱物がまず先に来るというのは反対なんですね。あくまでも箱物というのは魂が入って、そこをどういうふうに使われていくかということです。そして私も、山口裕子議員を初めとしてさまざまな御質問を賜って、例えば児童館であるとか、特にこれは中学生、高校生のいろんな関係を調べてみましたし、出張の途中で寄ったこともあります。そういったときに私が一番気になったのは、最初つくったときは結構人の行きんさっわけですね、子どもたちも行く。しかし、２年目からは大体普通どこでもがたっと減っていって、あとその維持費をどうするかとか悪循環のほうに行っているというのが基本的なパターンだと思うんですね。したがって、私がぜひ議会の皆様たちにお願いをしたいのは、館ではなくて、こういうことが機能としてあったら、いや、それは例えば中学生、高校生まで行けますよであるとか、あるいは、こういう場所だったら自由に集えますねというような、従来の発想から、言い方は悪いかもしれませんけど、山口裕子議員のお得意な逆の発想からぜひ私どもと一緒に話を進めていければいいなというふうに思っております。

ちょっと長くなりましたけれども、北方の子育て総合支援センターがあります。あれも名前がああなんで、例えば、結構今評判が高いのは、幼児の皆さんたちには非常に評判がいいんですね。お母さんたちにとってもいい。しかし、名前が子育て総合支援センターですので、割と中学生を持っているお母さんたちも来たりしているみたいなんですね。そしたら、なかなかそれは十分対応できないということもあります。名前がああいう名前ですので、そういったことからすると、やはりどういう機能を持つかということで、ぜひまた、重ねてでありますけれども、一緒に検討を進めていければいいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

その箱物の件に関しては、私も市長と同じ考えです。本当に新しくつくったりする必要はないと思うんですね。本当、御船が丘小学校だって子どもがこれだけ少なくなっている中、何かあいている教室とか、そういう形はなかったのかなと思ったんですが、やはりあいているところを利用してできればいいと思っています。

それと、中学生とか高学年になったときにいろんな問題が出てくるというときに、やはり乳幼児期とか子どもの小さいときに愛情を注いであげられる環境というのが一番大切だと思うので、子どもたちがほっとする場所で、そこに支援が必要だったら支援を用意しなければいけないんじゃないかというふうに思います。もちろん家庭とか地域が一番なんですが、今そういう環境にないということですね。子ども目線で考えたら、本当は子どもたちは家に帰りたいんじゃないかなというふうに思うんですね。家に帰って、おやつは好きなのを食べて、お友達と一緒に遊んだりという環境が望ましいかもしれないんですが、逆に帰っている子が周りに子どもたちがだれもいないという状況に今はなっていますよね。だから、市としてこれからはどういう支援をしたがいいのかという部分で、やはりこの学童保育というところは考えていかないといけないんじゃないかなというふうに思っています。

この学童保育では、指導員さんたちの仕事として、子どもたちの宿題を見るというところまでは充てられていないんですが、やはりもう６時まで預かっている子どもたちは家に帰ったら、本当に低学年というのは眠くなって、あとは御飯食べたら寝るという形ですよね。そうすると、やはり宿題もそこで済ませられたら一番いいことで、親御さんたちも望まれていることですね。でも、子どもたちに宿題をそこで世話しようとすると、指導員の先生たちは本当に子どもたちに手が回らないともおっしゃっていらっしゃいますので、そういうところから考えて、今後どういう対応が一番いいのかということで、この問題を上げさせていただきました。

あと２つです。学童の問題で、このたび３年で指導員の先生が交代という形で、山内の場合は一度にベテランの先生といいますか、指導員の先生が交代する形になりました。指導員側からも、それを利用する側からも、子どもたちにとってもなれた先生が一度にかわるということじゃなく、１人でも残っていただきたかったなという声が出ておりますが、その対応に対して御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

藤﨑こども部長

○藤﨑こども部長〔登壇〕

児童クラブの指導員さんの雇用期間につきましては、武雄市合併以降は最長３年までとなっております。ことしの21年４月１日には14名の交代があっております。議員指摘の一度に全員が交代されたクラブは４クラブありました。対策としては、退職された指導員さんが８日間指導補助員として引き継ぎの勤務をしていただいたところでございます。安心した利用

ができるよう、また混乱を起こさないよう対応したところでございますけれども、今後はそういうふうな年次で採用の人数も違ってまいりますので、クラブの指導員の異動等で全員が交代しなくて済むような体制に持っていきたいと思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に子どもたちからしても、利用する側からしても、そういう体制はきちんととっていただくことがベストだと思います。

あと、この交代があったときに、市外からの指導員の先生もいらっしゃるということを聞きましたが、できれば環境としては、地域のおばちゃんじゃないですが、やっぱり子どもたちの武雄町内とか山内町内とか、本当にそういう形で、そういう存在の指導員が入ることをとても私は望ましいと思うんですが、それに対してはどういう形で市外の方たちが入られたのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

藤﨑こども部長

○藤﨑こども部長〔登壇〕

先ほど14名が新しく採用されたと申しましたですけれども、この応募につきましては、17名の方が応募されております。武雄市内が９名、武雄市外が８名ということで、採用に関しましては、条件としまして児童厚生員、保育士、または教授の資格を有するというようなことでつけておりましたので、先ほど言いました申し込みの応募者があったということでございまして、今回14名というふうなことで数を考えてみましてでも、今回の採用につきましては市内から８名、市外から６名というふうなことになっております。市内在住の方が一番好ましいのじゃないかと思っておりますけれども、今回は17名の中に武雄から１人漏れられたというふうなことで、そこら辺は通勤関係もございますので、武雄市内の方をある程度は優先しているつもりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

できれば、声も上がっておりますので、町内とか武雄市内とか身近なところで、やはり子どもたちが満足できるような環境をつくるためにも今後指導をしていただきたいというふうに思います。本当に今いろんな問題が起こっていると言いますが、家族、地域で子どもたちを見られるのが一番いいと私は思うんですが、やはり社会環境によってこういう形が出てきておりますので、最低子どもたちが利用して満足のできる環境をつくるのが一番だと思うんです。親にとって便利な支援ではいけないと思うんですね。そういう面で、この学童は重要

な位置を占めると思いますので、もう一度こういう見直し、検討というのをしていただきたいと思いますが、もう一度、市長にお考えをお聞かせいただきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議員のおっしゃるとおりだと思います。ですので、学童に関しては子ども目線のほかに、大人目線のところも私はあると思うんですよね。やっぱり今共働きで働いておられる方であるとか、私たちのときは、私は３世代で同居しておりましたけど、もう核家族が武雄でも進んでいるという状況からして、全員に聞くわけにはいきませんけれども、きちんとやっぱり耳を澄ませて聞いてみる必要があるだろうと思っております。

一方で、山口裕子議員も私も小さかったころどうだったかなって考えたときに、私はあそこにおらす吉川議員のお兄ちゃんによく遊んでもらいました。淀姫神社のお宮で遊んでもらって、今どうかなと思って、この１週間ぐらい、例えば淀姫神社であるとか、高橋の天満宮であるとか、そういう目で見ていたら結構今遊びよっですもんね。ここの中央公園もそうです。ですので、今、外で遊ぶと、そして大人の目がきちんと届くようなところで、それは公園じゃなくてもいいと思います、お宮でもお寺でもいいと思います。そういう外でみんなで遊ぶということも含めて、学童とセットになるかどうかはちょっとわかりませんけれども、そういった私たちがちっちゃかったころの、非常に遊びを教えてもらって、あそこは多世代交流になっていたんですよね。ですので、そういうことも含めてもう一回、きちんとそこも見直して促進をしていく必要があるんではないかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に私たちの小さいときはとても幸せだったと思うんですね。地域に帰っても怖い事件とか、そういうことで脅かされることもなかったしですね。だけど、今は本当に地域に帰ったとき、子どもがひとりぼっちという環境が多いわけですね。塾とか習い事とかに行っている子どもたちも多いし、そういうときに群れ立って遊んだりする環境がないので、やはりこの学童児童クラブとか、ほかの市町村では児童センターとか、そういうところが大きく力を発揮しているんじゃないかというふうに思います。

お昼にかかりそうですが、もう１つ、次の質問まで行かせていただきたいと思いますが、いいでしょうか。

次、教育施設についてですが、学校給食センターについてお尋ねします。

山内町は私の知るところからセンター方式で学校給食を提供しておりますが、北方も合併

して給食センターということです。旧武雄町は自校式という形で給食を提供されておりますが、自校式にされておられる意味というか、流れといいますか、メリットがあって自校式にしているとか、そういうことをちょっとお話を聞きたいと思いますが、お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

自校式のメリット、デメリットというのは今までもいろいろ議論されてきたというふうに思います。メリットというのは、一番のメーンからいけば、やはり学校教育の面からが一番のメリットだというふうに思っています。ただ、単純にそれだけじゃなくて、やっぱりいろんなことを考えてみて、旧武雄市のほうではデメリットもありながらも、デメリットよりメリットのほうが多かったということでなってきているんじゃないかというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

私も何でここで取り上げているかといいますと、同僚議員も給食センターの件、ほかの件でしたが上がっておりましたが、山内のほうはもう老朽がきていて、新築しないといけない時期に近くなってきていると思うんですね。それと私も本当、自校式がいいのにと思っていたんですが、何もこれを変えることは頭に浮かばなかったんですが、先月、市長と語る会をしたときに地域で、できれば自校式で給食を提供してもらうことはできないんですかということを市長に質問された方がいらっしゃって、ああ本当だなというふうに私もそのとき思ったんです。

先ほど、教育に対して一番メリットがあるということで、今何のために食育とか、キッズキッチンだとか、本当にみんながいろんなところで学校とか行政が、食べることとか食の大切さとかを一生懸命教えていますが、もともと家庭でしなければならなかったことがこういう形になってきていると思うんですね。じゃ、食育が食の教育ということで、ここを推し進めないといけないと言うんだったら、この自校式で給食をつくるということ自体が一番直結していることだと私は思います。自分の小さいときを考えても、お昼近くになると、勉強したり遊んでいたりしても給食室からいいにおいが漂ってきたり、食欲をそそるような、お腹がすいたなと、お昼だなという感覚ですね。それは一番学校給食は大きな働きがあったと思うんですね。これだけ児童数も減ってきましたし、対応すれば空き教室とかに調理室をつくって、これから前向きに考えれば自校式という形もできるんじゃないかというふうに私もちょっと数日考えておりましたので、ここで提案させていただきました。これに対しては市長から答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに今の流れからすると、私も給食は自校式のほうが適切かつ妥当だと思っております。ただ、私が市長になる前に、旧山内町での議論の結果、あるいは行革の観点から、これは今までの議論の積み重ねがあります。そこで一刀両断にワンマンに自校式がいいからといって自校式に進めるということは、それは過去の議論の歴史、あるいはそういう給食センターのほうが妥当だという方々のお声もありますので、よくそういったことを議論する必要があるだろうというふうに思っております。

ということで、私といたしましては、それはもう食育第一、子ども第一ですので、どちらのほうが望ましいかということについて、私は自校式がいいと思っておりますので、そこはよく現場でまた議論をしていただいて、未来永劫給食センターがするという選択肢は私はないと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

この件に関しては、本当に大いに議論をして深めていただきたいと思います。行政とか地域では本当に食育だという、食の教育に力を入れているわけですから、学校とつながって学校の給食がここで直結することが一番だと思うんですね。冷たい給食、冷えて配られてくるのもそうですが、やはり子どもたちが、給食があって元気になるというその設定といいますか、そういう環境が一番大切だというふうに思っています。今はコンビニの個食とか、１人だけの孤食とか、そういう形でなかなか食に対して家庭でそういう環境をつくってあげられることができなくて、行政とかこういう形に、皆さんが本当は家庭でするべきことなのに、給食とかに大きく力がかかってきておりますので、ぜひともここは新築しないといけない、改築しないといけない給食センターは、しっかりと議論をして前向きな形で考えていただきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、１時20分まで休憩をいたします。

休　　憩　　12時

再　　開　　13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開いたします。

こども部長より訂正の答弁があっておりますので、これを許可します。藤﨑こども部長

○藤﨑こども部長〔登壇〕

午前中、山口議員の質問に対し、児童クラブ指導員さんの配置を60名以上が３人と答弁しておりましたですが、50名の誤りでしたので、訂正し、おわび申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

一般質問を続けます。３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

それでは、生活環境についてお尋ねいたします。

１番目に生活道路の安全確保についてですが、たびたび県道の拡幅工事とか議会でも取り上げられておりますが、私が今回上げておりますのは、梅野有田線に歩道をつけてほしいという要望が出ております。なかなか大野からの工事が進まずに、おくれている状況とはお知らせいただいておりますが、市長も御存じのとおり、あそこは子どもたちが通る通学路ですね。自転車でいえば、若木とか武内の有工生などが自転車でもあそこは通学して通る道でもあります。常々本当に危ない状況であるということはお伝えしておりますが、なかなか歩道をつけていただくという形には至りません。

ここが何でそのように危ないかというのは、梅野までが拡幅工事ができて、きれいな歩道もついております。大野のほうも工事が済んで、入り口が広くなりました。伊万里からの建設業の会社だと思いますが、大きなダンプが何回も朝から往復するような形になっているわけですね。乗用車が50キロとかで走る場合、40キロの道ではありますが、50キロというときにはそう感じないんですが、やはり私たちが歩いても、また車ですれ違っても、大型ダンプがすれ違うときは本当に危険なわけですね。子どもたちも何回か接触事故もあっております。逃げ道がないような状態でもありますので、何とかしてやはり生活道路の確保をしていただきたいなというふうに思って、再度またこの問題を上げてみました。

今、健康のために、歩道があれば皆さん夕方になったら、そこをウオーキングしたりもされるし、あと、うちの近くは竜門堂とか大野病院がありまして、お年寄りだって歩いてそこに通うことができるんですが、もう危なくて、歩くことさえできないわけですね。そういう形の状況にあるときに、何とかならないかという思いでお尋ねしているんですが、市長、見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員御指摘の梅野有田線、これ大野病院のところから伊万里山内線、ここまでの区間は今、事業を県のほうでやってもらっていますが、その先、今言われているのは今山の辺だと思うんですけど、ここはまだ事業区間に入っておりません。ですから、引き続き事業を進捗してもらうように、今後、県、あるいは土木事務所に強く要望していきたいというふうに思いま

す。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この区間が危ない、特に子どもたちにとって危ないということは十分認識をしておりますので、今度、知事に優先順位をいろいろ聞かれることがあります。本部長に聞かれることがありますので、ここは危ないということは申し伝えたいということは思っております。そして、その上で、ここは１回、知事と一緒に回ったことがあります。知事の選挙戦のときに私も一緒に回ったことがあって、ここはやっぱり狭いなということは知事の頭の中にも残っているというふうに思っておりますので、よく協議をして、さっきの400メートル区間がもうでき上がります。そうすると、その延長というのは話を言いやすいんですね。ですので、そういった意味で私自身も心して要望してまいりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に優先順位があって、どこも危ないところがあるというのはわかっておりますが、やはり先ほど言われた大野と伊万里線がなかなかおくれていて、ここが済まないことには次に行けませんという報告もあっておりまして、それを待っていたんじゃ、本当子どもたちに何かあったらという状況が続いております。私たちもできるところは努力して、交通安全指導の方々にお願いして、立て看板とか、ドライバーに注意をしていただくような看板をつけてもらったりとか、あと駐在員さんとか警察のほうに、建設業界、仕事で何回も往復される車はわかっていますので、その指導もお願いいたしますということでやっております。あと、保護者が朝の立ち当番を決めて、自分たちも動かないことには何も変わらないだろうということで朝も立っておりますので、できるだけ本当に生活道路として安全確保という意味で、ぜひともお願いしたいところでありますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次に行きます。

生活環境についての２番目、案内標識の見直しについてですが、標識にあわせて信号機とか、交差点が何点か気になるところがありましたので、ここで上げさせていただいております。標識は、やっぱり合併して、それぞれの施設とかが大分周知してわかってきたとは思います。しかし、武雄の人が山内を訪ねてきたり、北方の人が山内にというときによく聞かれるのが、うちの保健センターというのをよくお尋ねになるんですね、どこにありますかという形でですね。国土交通省の青い看板の国道とかを走っていて、案内で支所はこちらですよとかいう案内はわかるんですが、近くに来たときにもう少し親切なというか、わかりやすい標識があるといいなという声もありまして、ここで上げさせていただきました。特に三間坂

駅前はセバストポール通りとか新しくできたり、今、社協の改築とかが進んでいまして、あそこも今から駐車場とかができていくと思うんですが、あそこら辺の案内を、学校の案内とか社協の案内、保健センターの案内とか、もう少し親切な案内板が欲しいなと思うんですが、市長の考えをお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これちょっと後の御質問のときに使おうと思っていたんですけれども、（写真を示す）これは山内町の黒髪山に入るところで、議員よく御案内だと思いますけれども、非常にわかりやすいんですよね。シックでありながら、非常にわかりやすい。さっき議員の御指摘のあった看板、保健センターですが、あれ白とか青とか黄色とか赤とか、だれがどう見てもよくわかりにくくなっていますので、これはサインの統一をする必要があるんだろうなというふうに思っておりますので、山内はそういった意味で物すごく意識が――武雄市全体高いと思いますけれども、さらに高うございますので、こういうふうなサインの統一と、あと借景もきちんと考えた上で、これいいと思うんですよね、黒に白があって、こっちはホースの格納庫の赤もこうあって、これ意識したのかなと。それと、これ黒と緑と赤となると、これそのものも何かすごくデザインがいいなと思ってしまうほどこの美意識の高さというのは非常に感服をしている次第でありますので、先ほど申し上げた、サインを立てるというのは私も賛成です。しかし、その立て方が今問題であって、こういう山内方式をきちんとやっぱり取り入れていきたいなと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

すばらしいパネルが用意してあるなと思って、それは私のためのあれじゃなかったんですね。後から使われる分だったんですか。私も聞き取りのときに、その看板というか、陶芸家の方の看板がすごくいいということを言っておりました。本当に山内らしくて、矢印の方向をもって一つに案内しているところがすごくすばらしいということを聞き取りのときに言っていました。そういう案内板を、施設の近くに来ると、ああいう案内板があるとほっとするというか、そこら辺で聞くことができますね。そこに建物がなくても、方向で示してあると、ああ、この近くにあるんだなという形で、とてもいい看板だと私は思っておりますので、ぜひとも社協が老人福祉センターとか、いろんな形でまた変わってきますので、そういう案内板をお願いしたいと思います。

そしたら、次に、交差点とか信号機でちょっと気になるところがあるのでお願いしたいん

ですが、前回、同僚議員も上げてあったと思いますが、十二神の交差点です。ファミリーマートに接している交差点ですが、あそこが本当に複雑な四つ角になっていまして、朝のラッシュというか、子どもの送迎で車が多くなるんですが、本当に武雄方面から伊万里に向かったときに、左折する車がもう２台ほど並ぶと、直進が全く進まない状態になるんですね。だから、あんなところで渋滞が起こるのかなというぐらいに、一、二台しかはけなくて渋滞いたします。そのことは前回ほかの議員さんも伝えてあったと思うんですが、やはりこれは何らかの形で、早くスムーズに流れるような対策をとらなければならないんじゃないかと思うんですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

信号機の設置でございますけれども、矢印をつけたり時差方式にするという方法がございます。ただ、そうするとどうしても交通の流れが変わりますので、こういった信号機の設置、変更については、地元のほうで十分協議をしていただいて、所管が公安委員会になっておりますので、市のほうに上げていただいて、それをもって私どもとしては、それを公安委員会のほうに要望として上げていくという手続をとっておりますので、十分その辺地元のほうで協議をしていただいて、要望書として上げていただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

もう一度伝えておきますが、そこは信号機がどうこうじゃなくて、左折と直進と交差点のところに２車線ないと、直進で進めないわけなんですよね。車が少ないときは左折の車が１台ぐらいしか行かなかった（「右折やろう」と呼ぶ者あり）ごめんなさい、右折です、すみません、舞い上がっていまして、右折です、そうです。伊万里のほうに向かって右折の車が、子どもの送迎の時間になりますと、そこが何台も並ぶわけですね。並ぶと、直進が全くはかないわけですね。一、二台も行かないうちに、もう赤になってしまうわけですね。ということは、歩道は必要ですが、何かしらあそこの交差点の仕組みというか、道のつくりが流れないというか、越せないんですね。右折を直進が越して行けないような状態になっているわけですね。それは、本当に以前からその問題は言われていますので、本当に午前中か、通勤、通学、送迎のラッシュのときは、本当にたった一、二台しか直進が行けなくて歯がゆい思いというか、こういうところで渋滞が何で起こるんだろうという形を、いつも皆さん御意見としてもおっしゃいますし、何らかそういう早急な対応ができないかなという形でお尋ねしているんですが、もう一度答弁いただけますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

今御指摘のところは、久保田住宅のほうに行く横枕久保田線という市道と県道との変則的な四つ角ですね。ここは確かに議員おっしゃるとおりでございますので、県の土木事務所のほうに、また先ほどの有田線と一緒で要望していきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

よろしくお願いいたします。

あともう１つ、信号設置で住民の方からお願いがあっておりますが、今、三間坂の津々良地区からおりてくるというか、県道に入るところにコメリというＤＩＹのお店が今オープンしておりますが、そこがＪＡ山内のほうから入る車がよく事故にもなっているんですが、そこに信号がないと人が渡れないんですね。地元の方もあそこに信号が欲しいという声が、何とかしてくださいということで上がっています。あそこは犬走から嬉野に越える小越交差点ですかね、あそこから信号が近いからそれがつけづらいのか、ちょっとよく原因がわかりませんが、あそこにどうしても信号が必要だという声が上がっておりますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

信号機の設置につきましては、先ほど申し上げましたように、所管がもう公安委員会ということで、市が直接これを設置するというようなことの権限はございませんので、先ほど申し上げましたように、交通の流れ等も変わりますので、地元のほうで十分協議をしていただいて、まず市のほうに要望として上げていただければ、それをもって私のほうで公安委員会のほうに、警察ですけれども、要望書として上げていきたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

それでは、区のほうの方々が市に要望を上げてから事が進むということになるんですか。今までそういう要望はあっていないわけですかね。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

この箇所についての要望は、現在まで上がってきておりません。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

はい、わかりました。

そしたら、もう１カ所ですが、国道34号線、たびたび上げられておりますが、大﨑西交差点ですね、これも国の管轄とおっしゃるのかわかりませんが、佐賀方面から武雄に向かって、私たちは若木のほうに抜けるわけですね、帰り道として。そのとき、県道331号線ですかね、なかなかあそこは渋滞するところで有名ではありますが、そのときに信号機に右折する矢印が５秒でもあれば、本当にそこの渋滞というか、はけるのになということをいつも佐賀方面から帰るときに思うわけです、若木方面を抜けて帰るときですね、国道34号線から331号線に入るときですね。あれに矢印の信号、右折に５秒でもあれば、つけば、かなりあそこの渋滞も緩和されるんじゃないかと思うんですが、それに対して御見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

手続的には先ほどと一緒でございます。警察に聞いたところ、矢印の信号といいますか、あれはあそこでは矢印の信号はつけられないと。というのは、あそこで片方が赤になるわけですね。それで、直進のほうは進められるわけですよ。だから、するとしたら時差式、ちょうど八並の信号、あれが時差式になっていますけれども、ああいう方式は可能だろうけれども、それについても予算が要るというふうなことで、手続的には先ほどと同じように要望として上げていただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

なかなか、いつもあそこの渋滞を上げられるんですが、できるところから見れば、こういう形で緩和できるんじゃないかなと、単純にそういう住民の人の意見を聞いて私も思ったものですから、本当に抜本的な道、バイパスを通すとか、そういうことができなくても、早く、少しでも解消できるような方法があればと思って、上げさせていただきました。

そしたら次に、地球環境について。１番目、地球温暖化対策についてお尋ねいたします。

環境問題はたびたび私も上げさせていただいておりますが、今、日本は鳩山政権になって、

削減が25％という厳しい、厳しいというか、当たり前の数字でありますが、上げられました。しかし、どのようなことをすれば、この温暖化対策というか、ＣＯ2削減になるのか、皆さんもなかなかその意識までには入らないわけですよね。いつも私もいろんなことで提案させていただいておりますが、そんな中、武雄市がこれはという形で行っている実行計画ですね、今はこれをやっていますということがあればお伝え願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議員御案内のとおり、ＣＯ2削減というのは決め手がないわけですね。そこで、やれることはやっていこうというのがうちの環境課の基本的な方針であります。まず、目につくのは顔の見える環境の保全であるとかＣＯ2削減をしようということで、私どものビジュアルに耐え得る職員が、全員でありますけれども、環境課はいろんなところでポスターをつくったり、その職員がみずからマイバッグを配ったり、さまざまなところで職員が出前講座に出向いたり、本当にうちの環境課はよく頑張っていると思っています。評価も非常に高いです。

その中で具体的に申し上げますと、緑のカーテン、（パネルを示す）これは余り緑のカーテンになっていないところもあって、ちょっと意気込みが空回りしたところはあるんですが、（発言する者あり）よくとれているそうですけれども、緑のカーテンで、ことしちょっと、これも環境課の案でよくやってもらったんですけれども、来年はもう少し早く植えようとか、あるいは今度はゴーヤであるとか、キュウリであるとか、そういったものも一緒に植えて、葉っぱがやっぱり大きいんですよね、アサガオと比べると。ですので、そういう工夫をしてみたいということは申しております。

そして、これはちょっと顔が映っているからだめですね。あと、出前講座を強化して、区の役員会、婦人会、老人会の皆様方に、ごみの分別や環境問題について講座を開催しております。現在12カ所ほど出向いております。そして、これは山口裕子議員にも御尽力をいただきましたけれども、今年度よりごみ減量特区として、これは佐賀新聞にも大きく載りましたけれども、若木町、山内町の今山地区の婦人会、北方町の東宮裾地区にお願いをして、ごみの減量化推進を図っております。そして、これは意識づけにはなると思いますけれども、新エネルギーとしての太陽光発電の普及も、市としても補助したところであります。

いずれにしても、今いろんなところにトライをしていこうということであります。机上で計画をつくるのも大事なんですけれども、それよりもやっぱり体を動かして、あるいはいろんな効果を見ながら進めていくということも必要だと思っておりますので、今、そういう姿勢で積極的に取り組んでいるところであります。ですので、議員各位におかれましても、こういうことをしたほうがいいということがあれば、ぜひ私なり環境課なりにお伝えいただけ

ればありがたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。グリーンのカーテンではちょっと笑いが出ておりましたが、私はすごくこれは絶賛したいなというふうに思います。やはり行動しないと何も変わらないですよね。これは１年目で、ちょっと寂しい形のグリーンのカーテンだったと思うんですが、やはりこれは市長からの提案もあったように、ヘチマをしてみたり、あとゴーヤであったり、それを朝市に出したりとか、いろんな発展の仕方もあると思うんですが、ぜひとも何か、私はいつも思うんですが、官がこれだけやっていたらみんなが動くだろうというような政策を打ち出してほしいんです。本当にこれ一つでも、見事これが続くと、本当に武雄市はすごいねという呼び物の一つになると思うんですね。環境対策に熱心にやっている市町村は、この壁面、グリーンというか、そういうことはもうどこも既にやっていますので、ぜひとも名物になるように続けていってほしいなというふうに思います。やっぱり官がリーダーシップをとらないと、ごみとか地球温暖化対策というのは一人一人になかなかおりてきません。できる人ができるところからみたいなことを言っていたら、いつまででもＣＯ$_2$削減のパーセントなんて変わらないなというふうに思っています。

あと、市長にお尋ねしたいんですが、私たち特区を利用させていただいて、ごみ削減を１年間やらせていただいております。これをすることによって、本当に意識がすごく変わります。生ごみは全く市の焼却のごみに出さないと、皆さんがもう出していませんと。ということは、生ごみを減らしたということはもう30％減になるわけですよね。やはり行動しかないと思うんですね。だから、その特区も、ほかの地区の方々はどういう活動になっているかわかりませんが、こういう政策とか支援を続けてやっていただきたいなと思いますが、その考えに対して御意見をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

若木町の附防地区、そして、山内町の今山地区、そして北方町の東宮裾地区で、今、減量の推進特区ということで一生懸命頑張っていただいております。今、いろんな報告を受けておりますけれども、各地区でやっぱり濃淡が出てきているなということは思いますので、一たんそれを検証させてください。検証させていただいた上で、このまま今の、例えば補助メニューとか推進メニューがいいということを判断すればそれは続けていきますし、もう少し例えば地区も含めて変えたほうがいいということであれば、それは柔軟に変えていくということですので、リーダーシップを発揮しながら、今度は市に広がっていくようにしていきた

いなと。ですので、議員とそこは考え方は一緒であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に長年ごみ減量とか地球温暖化対策とか言われていますが、やはりごみの問題が一番環境問題には大きいと思うんですが、ごみを税金で処理しているということは、多く消費して多くのごみを出す人のごみを、少なく消費してごみの減量に努力している人の支払った税金とで、全体を処理するわけですよね。そういう不公平さを許しているということになるんですよね。だから、ぜひとも先進的にやっている、とても話題になっている徳島県の上勝町、ゼロ・ウェイスト作戦とか、そこから波及して、近くの福岡県の三潴郡大木町とかもゼロ・ウェイスト宣言をしておりますが、やはりこうした問題をきちんとやっていくということは、こうした住民負担のままでは減量の努力は報われないということで、住民負担から消費者負担にすれば、年間やはり国全体でも軽く２兆円もの金をごみ処理費に使っているわけですね。武雄市だって、自分たちが大量消費して大量廃棄する、捨てるために３億円、優に３億の税金を使うわけですよね。やはりそういったときに不公平さがないようなまちづくりをしないといけないと思うんですが、市長の見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう全く同感であります。山口裕子議員からお誘いを受けて黒髪地区の婦人会で、夜、市長と語る会をしたときに、あるお母さんからこういう発言がありました。ごみ２回のところとごみ１回のところで何で払う税金は一緒なんでしょうかと、私たちは努力をしているので、できれば私たちが努力した部分について、それは予算の範囲内、もちろん予算がかかるというのはわかっているんだけれども、範囲内でもう少し自分たちの活動を後押しするように、インセンティブのバックをしてくれないかといったことについて最初は戸惑って聞いていたんですけど、それは考え方としてあるのかなと。

一つ考えられるのは、エコポイントもそうなんですけれども、一生懸命環境に対して、ごみの減量をするであるとか、地区で頑張っていただいている方に応援をするというのと、ああ、これだけ減量すれば、例えば、これだけお金をもらえる、ポイントをもらえるんだとか、あるいは、それをもって今度はもう少し、例えば、今家庭用で生ごみを圧をかけて、高熱をかけて肥料に回していくとか、そういうのに回していけないかと、それが環境保全につながっていくのかなというふうにも思っておりますので、今度特区の制度を考えるときに、そのインセンティブ、誘引になるような制度もぜひつけ加えていきたいなというふうに思ってお

ります。何というんですかね、環境のためということだとなかなか二の足を踏む方々でも、例えば楽しんで、その結果として環境にいいという方々も多くいらっしゃいますので、そういう方々を取り込めるような、楽しんでいけるようなシステムをつくっていきたいなと、このように考えております。いずれにしても、特区の検証をしたときにそれを入れて、また新しい特区について考えてみたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に実行していくときに大切な問題だと思うんですね。やらなくてもいい人と一生懸命やっている人の差というか、自分たちの地区はもう本当に１回のごみ収集で済むように、ごみはできるだけ資源化して、リサイクルして、生ごみは一切出さなくてＥＭ処理をしようねという活動をしています。でも、ある地区では、どうして自分たちだけ２回回ってこないんですかとか、本当にパッカー車が２台、いつもの２倍要る、人件費も２倍要る、そういう処理をしているところと、本当に地道な活動をして、これで、わあ自分たちはこんな循環型社会になったねというふうにやっている地区、やっぱりそれがいい見本が広がっていかないといけないと思うんですね。だから、そういう意味で、特区という事業はいい形かなというふうに思います。

やはり地球温暖化は、産業大国がどんどんCO_2とかを発していて、飢餓貧困で悩むような、本当にそういう小さな、CO_2だって出し切れないような国の人が水害とか干ばつとかに遭って、幾らCO_2を減らせといってもその人たちは減らすことできないのに、そういう世界状況があるわけですよね。

だから、武雄市で考えたときもそんなふうな差が出てくると思うんですね。だから、全体に、みんなが一緒にこういう意識を持ってやっていこうという形を私は行政から投げかけていってほしいなと思います。そうすることによって、ごみの量は、廃プラの回収もリサイクルも始まりましたので、焼却するというごみが皆さんもうかなり減ってきたと思うんですね。どうでしょうか、本当にもう廃プラのリサイクルとか、婦人会でもやっているリサイクルとかをすると、燃えるものに出すごみは減ってきたと思うんですね。だから、そういうのを考えて、今後ごみ処理広域化基本計画がなされていますが、そのときに４市５町がまた計画に乗って、大きな焼却センターができるわけです。そのときに一番重要になってくると思うんですね。本当に削減に努めていて、ごみを減らすことができれば、それだけの大規模な処理場が要らないということになるし、そういうことを踏まえて、武雄市はこういう環境問題に取り組んでいただきたいなと思うんですが、一応ごみ処理広域化計画までつなげて御答弁いただきたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

ごみを何しろ減らそう、それだけで今環境課は動いております。それが温暖化対策にもつながるということから今やっておりますので、何しろごみ減量、それに対するＰＲ、啓蒙、これをやっていきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁に加えて、きのう30代の皆さんと夜ちょっと懇談会というか、懇親会をしたときに、大分やっぱり意識が変わってきたなと思うのは、ごみの減量の話になったときに、やっぱりかっこよく、エコというのはかっこいいとか、おしゃれだとかいうふうにすると、市長さん、それは進みますよという話をいただきましたので、苦節何十年とかという世界ではなくて、何かかっこいいとかファッションとか、そういうのを取り入れていくと、これは結構ごみの減量というのは進むのかなというふうに思いますので、ポスターであるとかデザインであるとか、あるいは私たち政治家のライフスタイルですよね、そういったことについてもきちんとしていく必要があるだろうなというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。ほかの市町村とかどんどん進んだところを見ると、来年１月にはそこの研修に行こうかなというふうに予定を立てている福岡県三潴郡大木町ですね、そこはゼロ・ウェイスト宣言をしております。2016年までにごみゼロの作戦を組んでいるんですが、そこは商工会の青年部が中心になって、「マイはしを持ってお店へＧｏ」というしゃれたパンフがあるんですが、お店の紹介が全部載っていて、マイはしを持ってきた方にはこんなサービスがありますというのが全部載っています。これは町全体でこういう環境に動いているわけですね。こういうのも、ああ持っていけばと、私も実際せいろ蒸しを食べにちょうど大木町に行ったときに、本当にマイはしを持っている人にだけお飲み物サービスですよという形で、コーヒーをいただきました。本当に町全体が楽しいというか、わくわくする感じで、ああ、よくやれているなというふうに思いました。そこに視察に行くように一応予定を立てております。ここはもう本当に行政が、クリエイティブチームができていて、それは計画するチームです。その下にアクティブチーム、行動をしていくチームが立てられていまして、あとエコリーダーがいまして、全部点検をして、できているかという100項目以上のチェックをしているんですね。ここはすごいなと思うんですが、やはり自分たちの電気ポットとかコーヒーメーカーとか冷蔵庫とかすべて廃止しているんですね。そして、庁舎内の自動販売機も全部

撤去しているんですね。だから、こういう形をすれば、もうすごい、うんと減るんですよね。経費的にもＣＯ$_2$にしてもそうだと思うんですが、だから、私はこんな努力しているんだったら、給料削減なんかしないで、こういうふうな動きを職員の方がどんどんするんだったら、逆に奨励していろんなメリットをつけていくという形もできるんじゃないかなというふうに思います。視察にまだ行っていませんが、行った団体の方が、本当に環境課の方の話がもう見事だと、話と実践というか、そういうのがすばらしかったよということを聞いています。

また、そこは資料代とお昼の昼食セットで1,500円で研修を受けますというふうになっています。この間、サミットのときに講演会の、副町長さんもおっしゃっていましたが、やはり視察研修を観光、視察観光というふうに今打ち出されていますが、私これを知ったとき、ぜひとも武雄市にたくさんの人が視察に来られているから、温泉とか宿泊をセットにして受けますというふうにすると、かなりこれはいい形ができてくるんじゃないかなというふうに市長に提案したいと思いますが、いかがお考えですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、数字はちょっと持ち合わせておりませんけれども、議員視察、あるいは全国の自治体の視察、あるいはＪＡであるとか商工会議所、商工会の視察が爆発的に今ふえています。そういった中で、確かにそれをパックにするといった、それで武雄に泊まっていただくということで有料化するということ、あるいは、先ほど言ったようにパックというのもあると思うんですけれども、ちょっともう少し、あと一、二年はこの状態が続くと思っています。もっとふえると思います。そのふえた時点で、じゃ、どういうふうに次につなげるかといったときにちょっと考えてみたいなと。今その様子を、私は慎重派でございますので、様子を今ちょっと見ております。ここで一気に、例えば横浜市のように1,500円とか2,000円取って、やっぱり減っとるわけですね。ですので、そこは高飛車にならずに謙虚に、今お越しいただくことを本当にウェルカムということにして、それが武雄市というのはいいとこばいというのをまたさらに広めてもらって、それが定着したときに私たちの果実をきちんといただくということが今望まれているのではないかなというふうに認識をしております。

とにかく武雄市が積極的に情報発信をして多くの皆さんたちを呼び込むということ、それが必要だと思いますし、一つお願いがあるのは、今度大木町に行かれるときに、ぜひうちのまちづくり部長並びに環境課も連れていっていただいて、一緒にそこでまた交流をしていただくと非常にありがたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

３番山口裕子議員

○３番（山口裕子君）〔登壇〕

慎重にということですから、そのほうがいいでしょう。本当に何から取りかかっていいのだろうかとか、いろいろな形で皆ちゅうちょしているところもあると思うので、やはり官が引っ張っていけるところをがんがんやっていってほしいなというふうに私は思います。やっぱりこれを続けていくことが大事だと思います。

それと、日本には問題が起こってから対処する対策はあっても、問題そのものを発生しないようにする政策がないと言われております。ごみ問題なんか特に解決するには、発生するごみの処理に追われるばかりで、対策ではなく、やはりごみの発生を抑制する政策こそが求められています。そのためには拡大生産者の責任、企業とかそういうところもごみを出さないような対策、販売のときにですね、そういう形も必要になってくると思います。徳島県上勝町などは、今ではいろどり産業で有名になっておりますが、基本はごみゼロ作戦、ごみ処理に税金を使わないという政策で打ち出されて、一応視察とか有名になったところでありますので、そういうところにぜひとも学んでいただいて、いい環境活動というか、地球温暖化対策になっていけばいいんじゃないかというふうに思っております。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。